

「コミュニケーションの手法」

1) 転勤族が多い

この経済産業連携会議は、転勤族の多い公共機関などの担当者が集まった会であるから、いざという時のために普段からコミュニケーションをよくすることが大切だと考えている。そのために、人事異動の多い時期に交流会を予定することになっている。その意味で、次回の4月は移動で新しく着任した人も多かろうということで、交流会を予定している。

2) ツール

ところで、交流会というと今までは宴会ということで、長岡の街中のお店で、いわゆる「飲み会」を開催してきたのだが、最近は「飲み会」と言っても、お互いにビールや日本酒を注ぎ合うというような、「ま、ま、ま、どうぞ一杯」などと言って話のきっかけを作り、挨拶をしあって、くだけた話をしてお互いを知るといった段取りが使いにくくなってきた。なぜならば、ビールや日本酒の熱燗などは「注ぎ合う」という行為が行いやすいのだが、チューハイだハイボールだなどということになると注ぎ合うことができない。ワインなどで、無理やりワイングラス一杯になるまで注いでいるケースもあるが、あまりスマートな雰囲気はない。やはり、酒席でのコミュニケーションは注ぎ合うことで話のきっかけ作りがやりやすいという意味での酒やビールであるので、何か他のきっかけ作りや話題作りのツールがあれば、何もビールや酒である必要もない。

3) 仲間はずれ

そもそも、アルコールである必要もない。なぜならば、最近はノンアルコールビールの種類も多く、宴席で、私は車ですので今日はこれで、などと言いながらノンアルコールビールや烏龍茶を飲んでいる人も多い。ここで、烏龍茶というと何か空気が白けた雰囲気になるが、ノンアルコールビールだと宴席の「仲間」という雰囲気が保てる。おかしなことだと思いながら、わざわざ高いノンアルコールビールを飲んでいる。これは「仲間はずれ」にならないために、烏龍茶ではなくノンアルコールビールをあえて選んでいるのだろうか、などと思いながら見ている。

4) 女性管理職

さて、最近は女性の管理職も増えてきた。そうすると、女性が酒席にメンバーとして参加する機会も多くなってくる。ここで、厄介な問題が起きがちになる。それは、酒席には兎角、今まで男性中心社会で男性中心のコミュニケーションが語られてきた。そんな中で、昭和の考え方から抜けられない人が大勢いる。だが、それは男性だけのエゴイステックな発想だということを理解していないと問題が起きる。セクハラなどと言われ、このようなことに対するトラブルは最近とみに多くマスコミなどで報道されて、訴訟問題に発展するようなことも起きている。ここは、きちんと意識しないと厄介な問題となる。

5) そもそも

そこで、少しでも厄介な問題にならないようにするためには、そもそもの目的を明確にして、その目的を達成するために「酒席」が必ずしも必要なのかというような議論がなされる。何も「酒」を用いた席を考えるだけでなく、食事会というような手法もあるだろうし、茶話会などということも考えられよう。ここは知恵の出どころではないかと思う。しかし、そもそも「酒」が提供され場だからといって、全てがセクハラの問題が起きるわけではなく、問題を起こしているのは参加者の意識の問題なのだから、そこがきちんとしていれば全く問題にならないはずだ。

6) 今後

という意味も含めて今後のこの会の運営について皆さんと少し議論をして、コミュニケーションの取り方の工夫をいろいろ考えていきたいと思っている。